



# 1月の園だより

学校法人志賀学園

松の実こども園

令和8年1月8日

新年あけましておめでとうございます。1月は、凧揚げやこま回し、カルタや福笑い、羽根つきなどお正月遊びを楽しんでいきます。羽根つきは厄払い、凧揚げには願いごとを乗せて天に届けるといった意味があるようです。昔ながらの遊びを引き継いでいきたいですね。

さて、1月5日には志賀学園職員の顔合わせがあり、理事長先生より年頭のご挨拶の中で、令和8年度4月からの教育方針が示されました。今年度の教育方針は『こどもたちの「やってみたい！」に応える保育をしよう』です。昨年度の「こどもたちのあそびを深める保育をしよう」から、子どもたち自身のやりたいという気持ちに応えられる保育が求められます。それにはこどもたちの興味・関心を感じとり、「先生○○やってみたい！」「○を作りたいから○○欲しいな！」「○○の曲かけて！」等の思いに応えられるよう、その都度必要な環境を整え、発展を見ながらあそびを深めていくことが大切です。園では子どもの声に耳を傾け、寄り添い、子どもの可能性を広げ、家庭では経験できないことをお友だちと経験し、楽しく過ごしていきたいと思います。また、乳幼児さんにおかれましては、アタッチメント（愛着）が大切ですので、引き続き温かなキンシップを心掛けて参ります。

1月7日に七草を入れたお粥を食べると一年間病気をしないと言われています。春の七草とは、セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ・ホトケノザ・スズナ・スズシロです。お正月について過ぎて疲れた胃腸にとっては、優しい食べ物ですね。11日は「鏡開き」です。今年は日曜日ですので、園では9日に、こども園の神棚にお供えていた鏡餅を子どもたちと一緒に小槌でたたいて開きます。（「割る」という言葉は縁起が悪いので「開」と表現します）細かくした餅は、しばらくの間乾燥させ、給食の先生方に揚げ餅にしてもらい子どもたちで食べたいと思います。一年間元気に過ごせることを願いつつ、食べ物を大事にすること等、古来から伝わる言い伝えを子どもたちに伝えて行きたいと思います。

3学期になりますと進学進級を意識して、目に見える部分が気になり出し「うちの子は大丈夫？」とご心配される保護者の方もいらっしゃるかもしれません。乳幼児期は、意欲的に取り組んだり、相手を思いやったり、創意工夫をしたりといった「目には見えない力」をじっくりと時間をかけて養っていくことが大事です。この時期は、人間の土台である「根っこ」をしっかりと育てることが重要であり、この「根っこ」をしっかりと伸ばすことが目に見える部分へと繋がっていきます。幼児期は知識を増やしたり学んだりするよりも実際に五感を使って体験し「これってなに？」「どうなっているの？」と興味や関心を広げ「おもしろい」「ふしぎ」と心が動き「もっと知りたい」「もっとやりたい」と遊びを深めていけるよう、職員一同、新年を迎えて新たに子どもたちに関わって参ります。今年も宜しくお願ひ致します。